

第32回 四国国語教育研究大会（徳島大会）

新しい時代に必要となる言語能力の育成
一つながりを意識した授業展開の工夫—

綾歌中学校 大広遥香

1 全体会

- ① 「国語の授業で確かで質の高い言語能力を保障していくための方略—主体的な学び・対話的な学びを最大限生かしつつ—」をテーマに記念講演を開催。生徒を取り巻く状況の変化や「持続可能な社会の創り手」を育成することを目標に開催された。
- ② 近年、ICTの活用は当たり前になり、国語科の授業としてもタブレットを進んで使っていきたいと考えている。ICTを活用して授業に効果的に使うことは難しい。記念講演では、教材研究を重ねられた阿部教授の非常におもしろい学習課題、教材の疑問を聞かせていただいた。このような従来の国語教育の部分は失わずに、ICTを使うことを目的とせず、ツールとして使うことは忘れずに、授業の中で取り入れていけたらと考えた。もちろん、未来に必要な資質の部分も育成することに留意したい。

2 授業

- ① 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を読んで、文章のよさを考えよう。」の学習課題のもと、二つの文章を比較して、文章の特徴を考えることを通して、『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」のよさ(筆者の工夫)を見つける活動を行っていた。二つの文章を比較した違いから、教科書に載せるために編集した文章にある筆者の工夫を発見し、その活動を通して、説得力のある文章、仮説検証型の説明的な文章の特徴を見つける。
- ② この授業では教科書に収められている『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」の本書との比較読みであった。「初恋」の授業をした際には、第3連が消され、最後の1行が編集されたことを伝えると、反応が大きく、「なんでうれしくにしたのかな」「多分振られたから、『こひしけれ』だと気まずいと思ってした」など、こちらから聞かなくても自分たちだけで意見を交わしていた。学んできた教材と同じもので比較ができると、生徒たちに主体性が生まれると感じた。この授業では、夏休み期間中に本書を読破しているということであり、本や作者に対しての興味、関心も生まれていたように思う。その中で教科書版と、それぞれの特徴を挙げて比較をすることで、優劣をつけずに比較することができたと感じた。

3 分科会

- ① 分科会Ⅰでは、旅行計画を考えて下学年にプレゼンテーションする活動を通じて、相手に応じて話す内容を吟味し、分かりやすく伝える力を育成することを目的とした。分科会Ⅱでは、理解度の高い「情報の扱いに関する事項」を使い、情報の比較や分類や、関連付けをすることを通して、課題である「読むこと」の力を伸ばすことで深まる学びを目指した。
- ② 分科会Ⅰでは、生徒たちが話すことは積極的に行う反面、自分の言いたいことを一方的に述べてしまい、相手の聞きやすさを意識していない課題があった。目的意識をもたせてプレゼンテーションを行うことによって、生徒たちにも自分への課題意識が生まれたと感じる。また、実際に自分たちが選んだ場所の周遊プランをおすすめとして下学年に提案することで、生徒たち自身に主体性・積極性が生まれたと感じる。自分たちが選んだものであるという意識をもたせることがどの活動においても、主体的な学びにつなげるためには必要だと感じた。加えて、今回の活動は聞く側も非常に興味があるため、相手意識をもって活動できていた。

自分の経験したことでプレゼンテーションをする有用性もあり、調べ学習ではなく、自分の体験したことでプレゼンの内容を考えるため、リアリティがあり、説得力のある良い情報になっていることも生徒たちは実感できたのではないだろうか。また、班で作成することによって情報の取捨選択、精選をすることもできていたと考える。この指導案では、ブラッシュアップの機会が多い。プレゼン前の改善、プレゼン後の改善、プレゼンを経ての改善となっている。やったことや学んだことを次の機会につなげることが学びの重要性である。また、技能的な能力は学んだことを定着させるため、繰り返すことが必要なため、非常に良い授業の流れであったと感じる。

分科会Ⅱでは、よさやわかりやすさ、説得力の前提を全員で決めることや、作成する際に教師が設定する枠組みが大切だと感じた。なぜその思考ツールを使うのか理解して使うことによる納得度も生徒に感じさせておくと、より有用性が高まると感じた。

4 今後に向けて（R9 四国大会）

今回の大会では、自分の一番の苦手なICTをどのように授業に生かしているのかを見ることができた。また、見通しをもって学習に臨み、振り返りにつなげることが改めて重要であると感じた。R9 四国大会に向けては、教材研究に臨み、丸亀の先生方と連携をとって授業づくりや発表に協力できるようにしたい。特に、授業で生徒たちが見通しをもって学習に取り組んでいるのか、自分のICTの使い方が適切であるのかが疑問な部分があり、先生方と話し合いをしながら、この大会を通してよりよい授業づくりをしていきたいと考えた。様々な授業や、生徒が興味を持てるような学習課題、ICTの活用、今回見せていただいた様々な例を共有しながら大会に向けて、日々の授業も大切にしていきたい。